

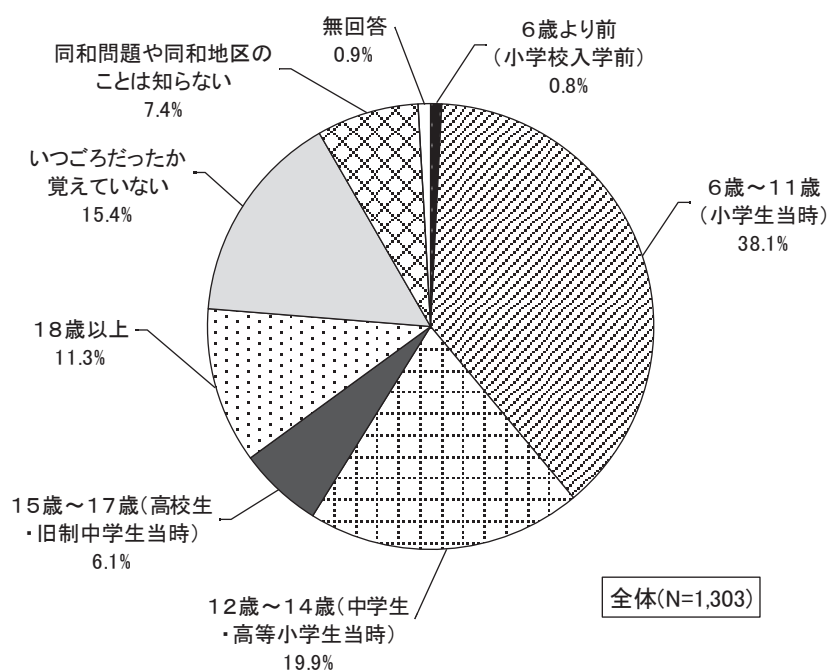
## 第2章 個別の人権問題について

### 1 同和問題について

#### (1) 認知時期

問11 あなたが同和問題や同和地区について初めて知ったのはいつごろでしょうか。  
(○は1つだけ)

図表11-1 同和問題の認知時期(全体)

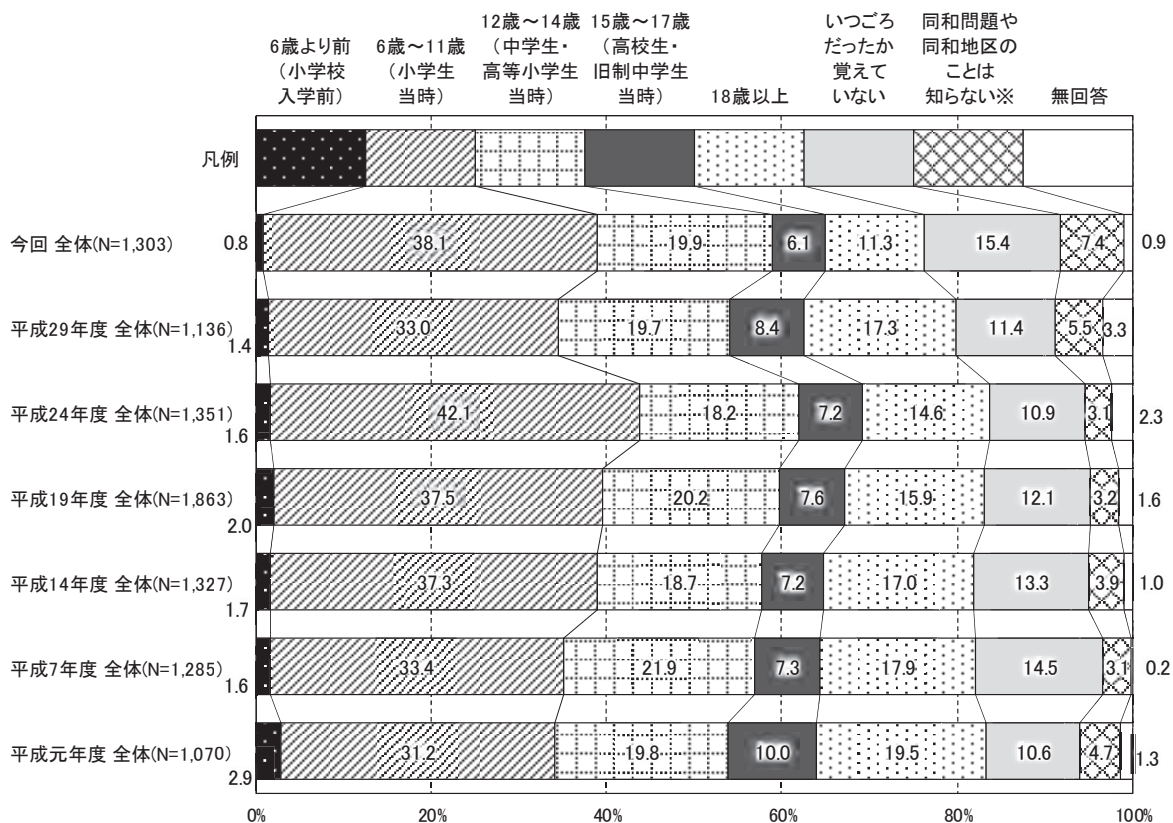


※設問文は、平成29年度調査以前は、「日本の社会に、被差別部落、同和地区などと呼ばれ、「差別」を受けてきた地区(以下、同和地区という。)があることを、あなたが初めて知ったのはいつごろでしょうか。」

同和問題や同和地区について初めて知った時期としては、「6歳～11歳(小学生当時)」が38.1%と最も高くなっている。次いで「12歳～14歳(中学生・高等小学生当時)」(19.9%)、「18歳以上」(11.3%)となっている。

また、「いつごろだったか覚えていない」(15.4%)、「同和問題や同和地区のことは知らない」(7.4%)を選択した人が、合わせて2割強となっている。

図表 11-2 同和問題の認知時期（全体／経年比較）

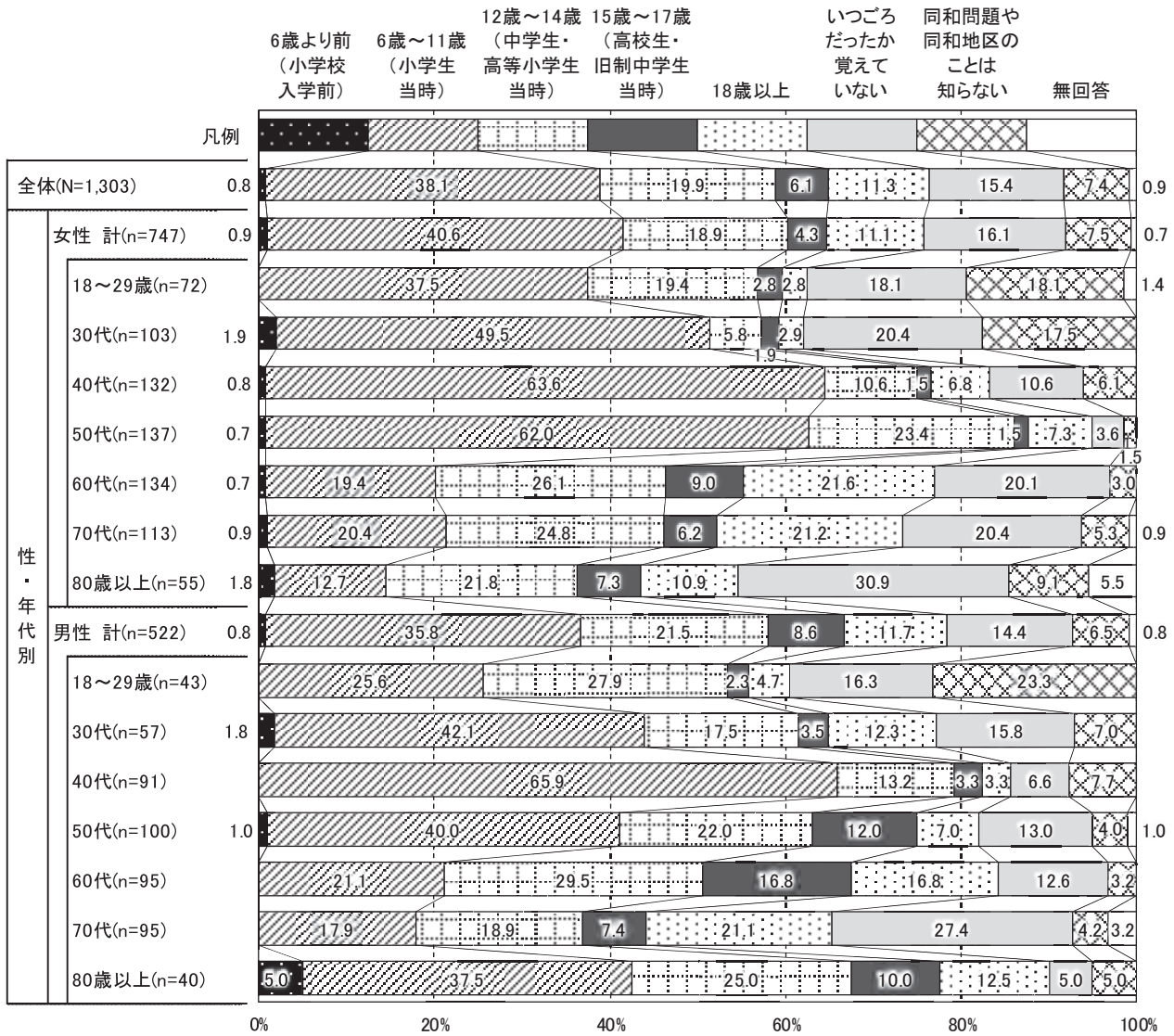


※ 平成29年度調査以前の選択肢は、「同和地区のことは知らない」

平成 29 年度と比べると、「6 歳より前（小学校入学前）」は 0.6 ポイント減少、「6 歳～11 歳（小学生当時）」は 5.1 ポイント増加、「12 歳～14 歳（中学生・高等小学生当時）」は 0.2 ポイント増加、「15 歳～17 歳（高校生・旧制中学生当時）」は 2.3 ポイント減少、「18 歳以上」は 6.0 ポイント減少、「いつごろだったか覚えていない」は 4.0 ポイント増加、「同和問題や同和地区のことは知らない」は 1.9 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、知った時期の多い「6 歳～11 歳（小学生当時）」が 4 割弱、「12 歳～14 歳（中学生・高等小学生当時）」が平成元年度以降、2 割前後で推移しており、大きな変化はみられない。ただし、「18 歳以上」の割合は、平成元年度の 19.5%から減少傾向にあったが、平成 29 年度に 17.3%に増加し、今回調査では 11.3%に減少している。

図表 11-3 同和問題の認知時期（性・年代別）



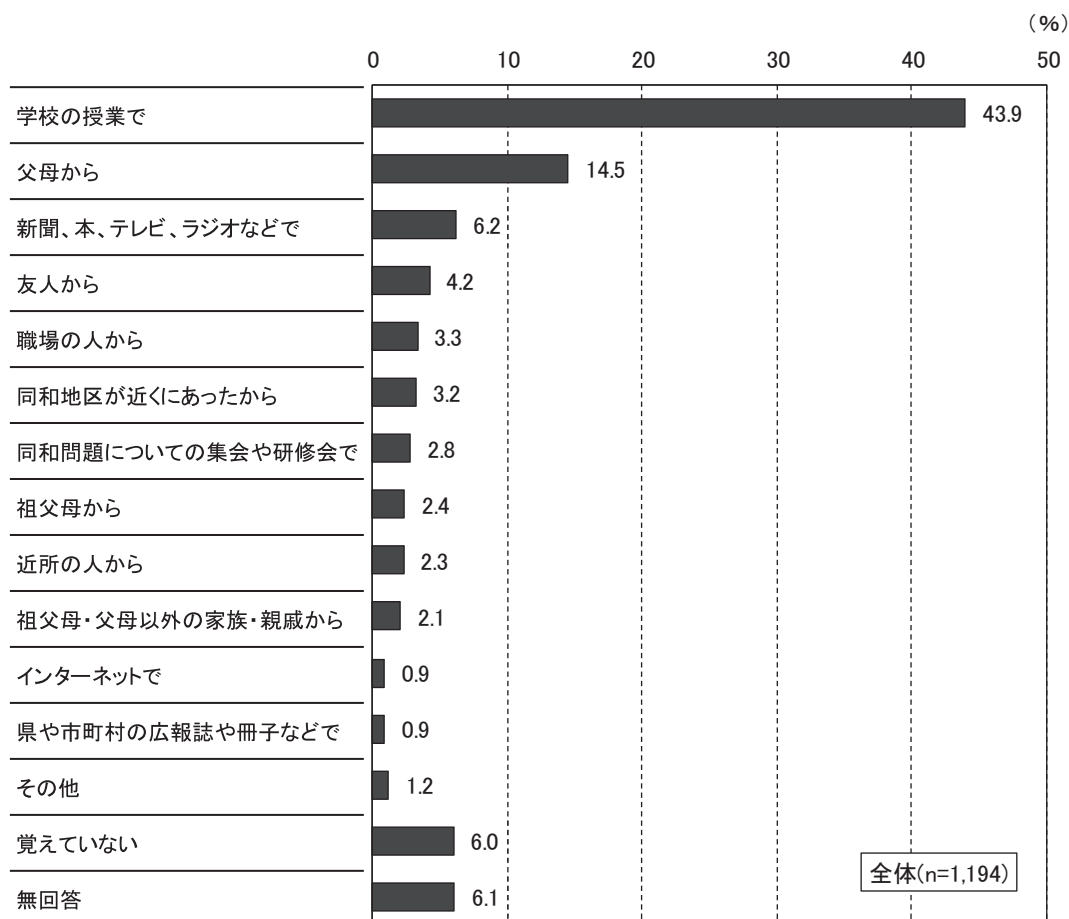
性別にみると、女性では「6歳～11歳（小学生当時）」が40.6%と男性（35.8%）よりも4.8ポイント高く、「15歳～17歳（高校生・旧制中学生当時）」が4.3%と男性（8.6%）よりも4.3ポイント低くなっている。

性・年代別にみると、男女とも30～50代では「6歳～11歳（小学生当時）」の割合が他の性・年代に比べて高くなっている。また、男性18～29歳では「同和問題や同和地区のことは知らない」（23.3%）の割合が高くなっている。

(2) 認知経路

問 12 (問 11 で 1～6 に○印をつけられた方に、お尋ねします。)  
 あなたが初めて同和問題や同和地区について知ったのは、何によってでしょうか。  
 (○は1つだけ)

図表 12-1 同和問題の認知経路 (全体)



※設問文は、平成 29 年度調査以前は、「あなたが初めてそのことを知ったのは、何によってでしょうか。」

何によって同和問題や同和地区について初めて知ったかをみると、「学校の授業で」が 43.9% と最も高くなっている。次いで「父母から」(14.5%)、「新聞、本、テレビ、ラジオなどで」(6.2%)、「友人から」(4.2%) となっている。

図表 12-2 同和問題の認知経路（全体／経年比較）

選択肢	今回 (n=1,194)	平成29年度 (n=1,035)	平成24年度 (n=1,278)	平成19年度 (n=1,775)	平成14年度 (n=1,262)	平成7年度 (n=1,243)	平成元年度 (n=1,006)
学校の授業で	43.9%	33.5%	41.5%	35.3%	29.6%	26.9%	12.8%
父母から	14.5%	12.9%	17.1%	17.2%	16.7%	17.1%	19.9%
新聞、本、テレビ、ラジオなどで	6.2%	6.2%	6.7%	6.6%	6.8%	6.8%	6.8%
友人から※1	4.2%	4.9%	5.0%	6.3%	6.3%	7.8%	10.3%
職場の人から	3.3%	3.4%	5.1%	4.1%	4.2%	4.0%	4.9%
同和地区が近くにあったから	3.2%	3.7%	4.1%	5.4%	5.0%	6.7%	4.6%
同和問題についての集会や研修会で	2.8%	3.6%	3.4%	4.3%	5.9%	4.6%	4.4%
祖父母から※2	2.4%	2.2%	2.7%				
近所の人から	2.3%	2.6%	3.9%	6.4%	4.6%	5.4%	7.3%
祖父母・父母以外の家族・親戚から ※2	2.1%	2.2%	1.9%				
インターネットで※3	0.9%	0.5%	0.2%	0.2%	0.1%		
県や市町村の広報誌や冊子などで	0.9%	1.3%	1.3%	1.3%	2.2%	2.0%	2.7%
その他	1.2%	1.2%	1.5%	1.5%	1.7%	2.6%	2.0%
覚えていない	6.0%	4.7%	5.2%	3.8%	5.6%	6.7%	8.1%
無回答	6.1%	17.2%	0.7%	1.0%	4.1%	0.6%	4.8%

※1 平成29年度調査以前は「学校の友達から」

※2 平成24年度調査より追加した選択肢

※3 平成14年度調査より追加した選択肢

平成29年度と比べると、上位項目では「学校の授業で」は10.4ポイント増加、「父母から」は1.6ポイント増加、「新聞、本、テレビ、ラジオなどで」は同率となっている。

過去の調査結果と比較すると、平成7年度から「学校の授業で」が最も高く、平成24年度に初めて4割台となり、平成29年度は3割台に減少したものの、今回調査では43.9%と、これまでで一番高くなっている。

その他の認知経路については、大きな変化はみられない。

図表 12-3 同和問題の認知経路（性・年代別）

(数値：%)

	サンプル数	学校の授業で	父母から	新聞、本、テレビ、ラジオなどで	友人から	職場の人から	同和地区が近くにあつたから	同和問題についての集會や研修会で	祖父母から	近所の人から	祖母・親戚から	インターネットで	県や市町村の広報誌や冊子などで	その他	覚えていない	無回答	
全体	1,194	43.9	14.5	6.2	4.2	3.3	3.2	2.8	2.4	2.3	2.1	0.9	0.9	1.2	6.0	6.1	
性・年代別	女性計	686	45.6	15.2	5.2	3.5	2.3	2.8	3.2	2.6	1.7	1.2	0.7	0.7	1.2	6.7	7.3
	18~29歳	58	● 74.1	10.3	-	-	-	-	1.7	-	-	5.2	-	-	3.4	5.2	
	30代	85	● 60.0	5.9	8.2	1.2	3.5	-	3.5	-	-	1.2	-	-	9.4	7.1	
	40代	124	● 66.1	8.1	0.8	0.8	2.4	3.2	0.8	0.8	0.8	1.6	0.8	-	0.8	6.5	6.5
	50代	135	● 60.7	16.3	3.0	3.0	1.5	2.2	1.5	2.2	1.5	-	-	-	1.5	6.7	
	60代	130	34.6	17.7	6.2	5.4	3.1	2.3	5.4	0.8	-	3.1	-	3.1	1.5	6.2	10.8
	70代	106	7.5	23.6	10.4	9.4	3.8	3.8	7.5	6.6	5.7	1.9	-	0.9	2.8	9.4	6.6
	80歳以上	47	4.3	● 25.5	10.6	2.1	-	10.6	8.5	4.3	6.4	-	-	-	4.3	● 17.0	6.4
	男性計	484	42.6	12.8	7.2	5.2	4.8	3.9	2.1	2.3	2.5	3.5	1.2	1.2	1.2	4.8	4.8
	18~29歳	33	● 69.7	3.0	6.1	-	-	-	-	-	-	3.0	6.1	-	-	6.1	6.1
	30代	53	● 54.7	7.5	11.3	-	3.8	-	-	1.9	1.9	-	3.8	-	3.8	7.5	3.8
	40代	84	● 71.4	8.3	3.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	-	2.4	-	1.2	2.4	3.6
	50代	95	● 60.0	10.5	4.2	3.2	5.3	1.1	-	3.2	1.1	1.1	-	-	1.1	5.3	4.2
	60代	92	27.2	14.1	7.6	14.1	4.3	5.4	2.2	2.2	2.2	4.3	-	3.3	1.1	6.5	5.4
70代	88	6.8	18.2	13.6	6.8	11.4	6.8	6.8	3.4	5.7	8.0	-	3.4	-	4.5	4.5	
80歳以上	38	15.8	● 28.9	2.6	2.6	2.6	● 15.8	2.6	2.6	5.3	10.5	-	-	2.6	-	7.9	

※   =全体の数値より+5ポイント、● =全体の数値より+10ポイント

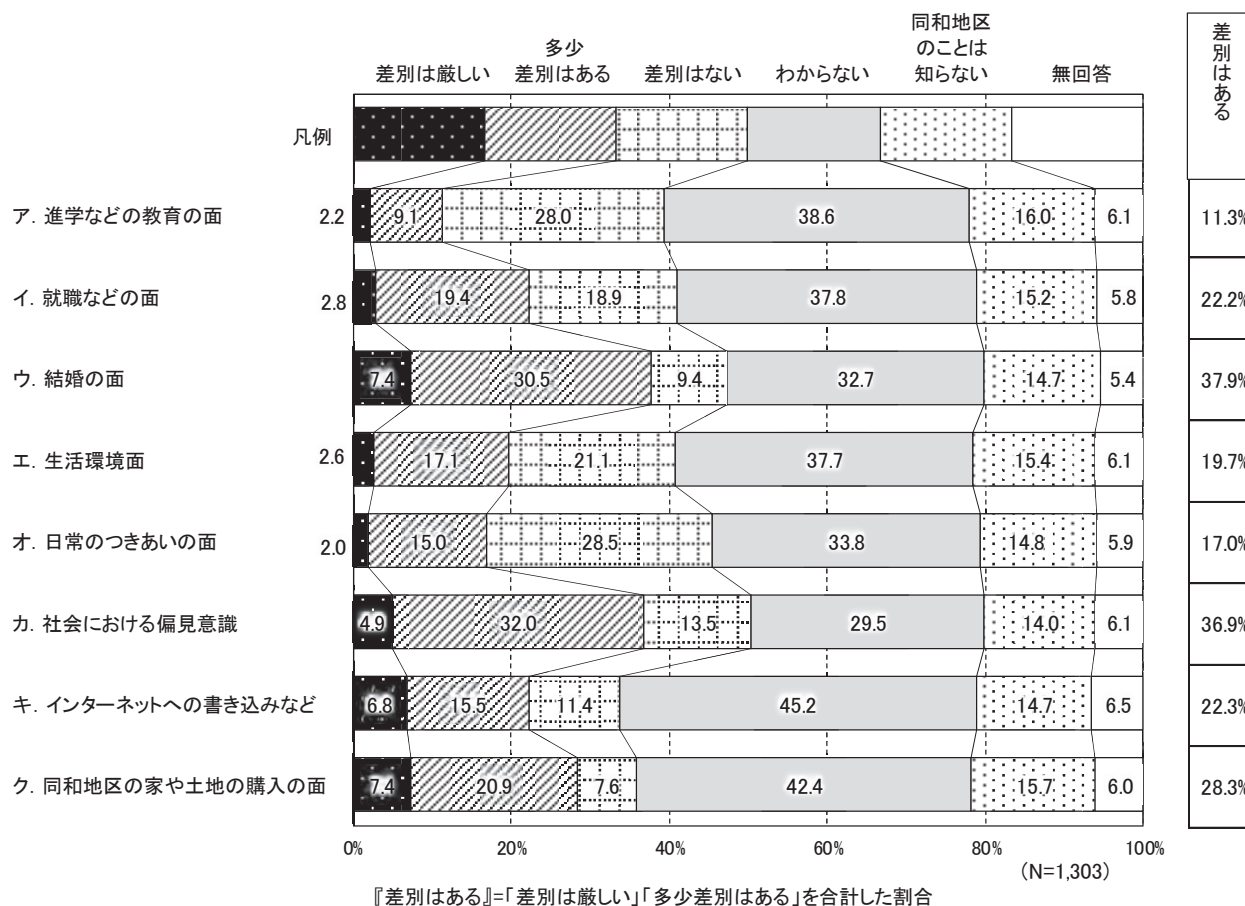
性別にみると、男女とも「学校の授業で」（女性 45.6%、男性 42.6%）が最も高く、次いで「父母から」（女性 15.2%、男性 12.8%）、「新聞、本、テレビ、ラジオなどで」（女性 5.2%、男性 7.2%）となっている。

性・年代別にみると、男女とも50代以下では「学校の授業で」の割合が高くなっている。また、男女とも80歳以上では「父母から」の割合が他の性・年代に比べて高くなっている。

(3) いまなお差別があると思うかどうか

問 13 同和地区や、その地区に住んでいる人々に対する差別についてどう思いますか。  
 アからクまでのそれぞれに○印をつけてください。  
 (ア～クのすべての事項について、あなたのお考えに最も近い1つに○)

図表 13-1 いまなお差別があると思うかどうか (全体)

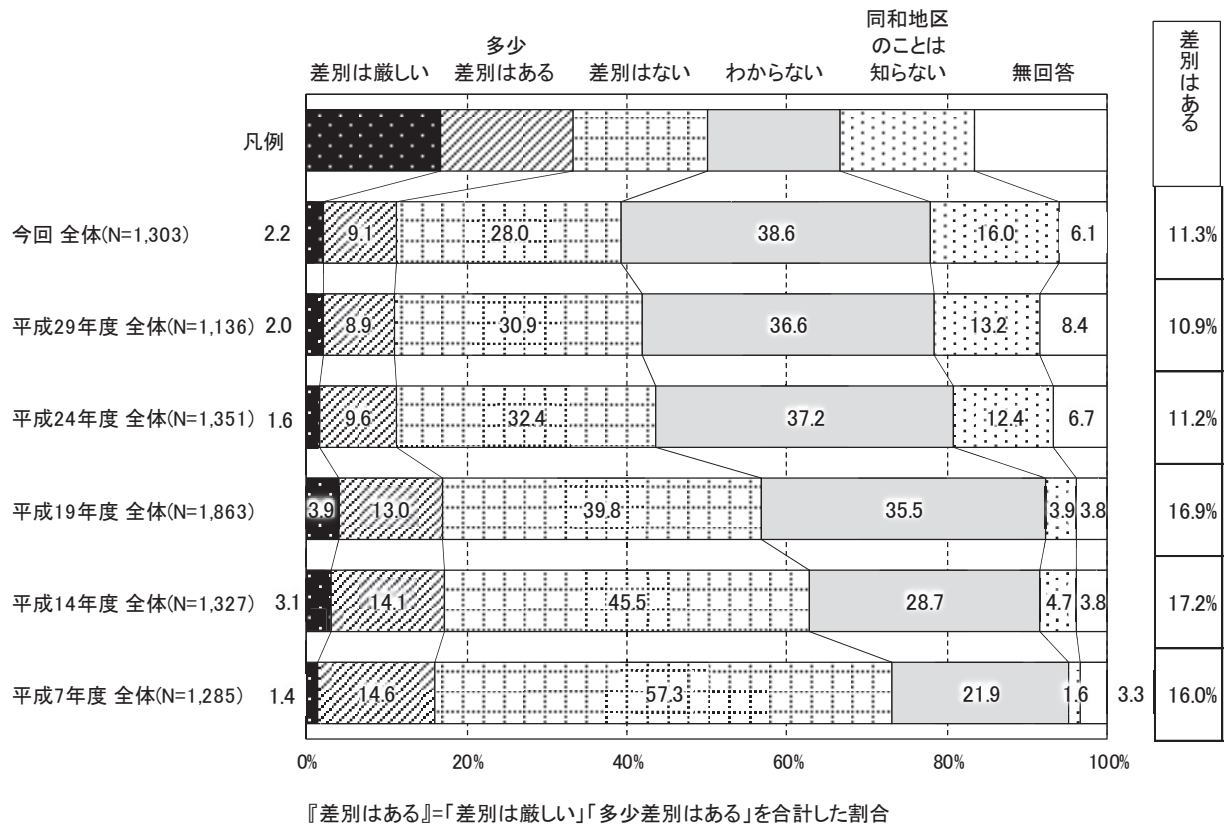


同和地区や、その地区に住んでいる人々に対するア～クに示す状況について、差別があると思うかどうかについてたずねたところ、『差別はある』の割合は、結婚の面（37.9%）、社会における偏見意識（36.9%）が3割台と高く、次いで、同和地区の家や土地の購入の面（28.3%）、インターネットへの書き込みなど（22.3%）、就職などの面（22.2%）となっている。最も低いのは、進学などの教育の面（11.3%）である。

また、「インターネットへの書き込みなど」「同和地区の家や土地の購入の面」については、「わからない」と回答した割合が4割を超えている。

ア 進学などの教育の面

図表 13-2 いまなお差別があると思うかどうか（進学などの教育の面）（全体／経年比較）



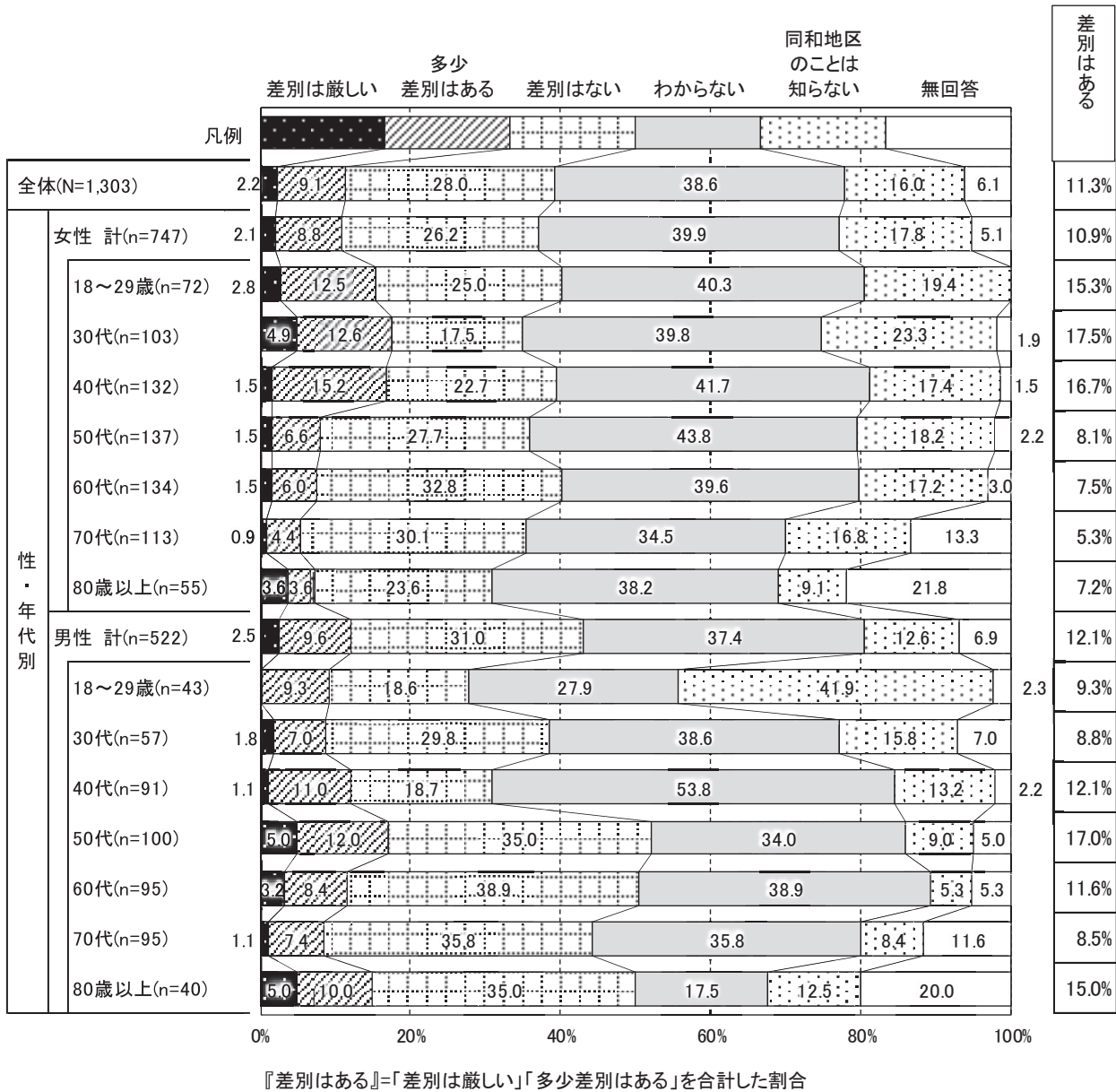
平成 29 年度と比較すると、「差別は厳しい」は 0.2 ポイント増加、「多少差別はある」は 0.2 ポイント増加、これらを合わせた『差別はある』は 0.4 ポイント増加している。一方、「差別はない」は 2.9 ポイント減少している。また、「わからない」は 2.0 ポイント増加、「同和地区のことは知らない」は 2.8 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、『差別はある』の割合は、平成 14 年度の 17.2%が最も高く、平成 24 年度以降は、約 1 割でほぼ横ばいで推移している。

その一方で、「差別はない」の割合は、平成 7 年度の 57.3%から 29.3 ポイント減の 28.0%となり、「わからない」は平成 7 年度から 21.9%から 16.7 ポイント増の 38.6%、「同和地区のことは知らない」が 1.6%から 14.4 ポイント増の 16.0%となっている。



図表 13-3 いまなお差別があると思うかどうか（進学などの教育の面）（性・年代別）



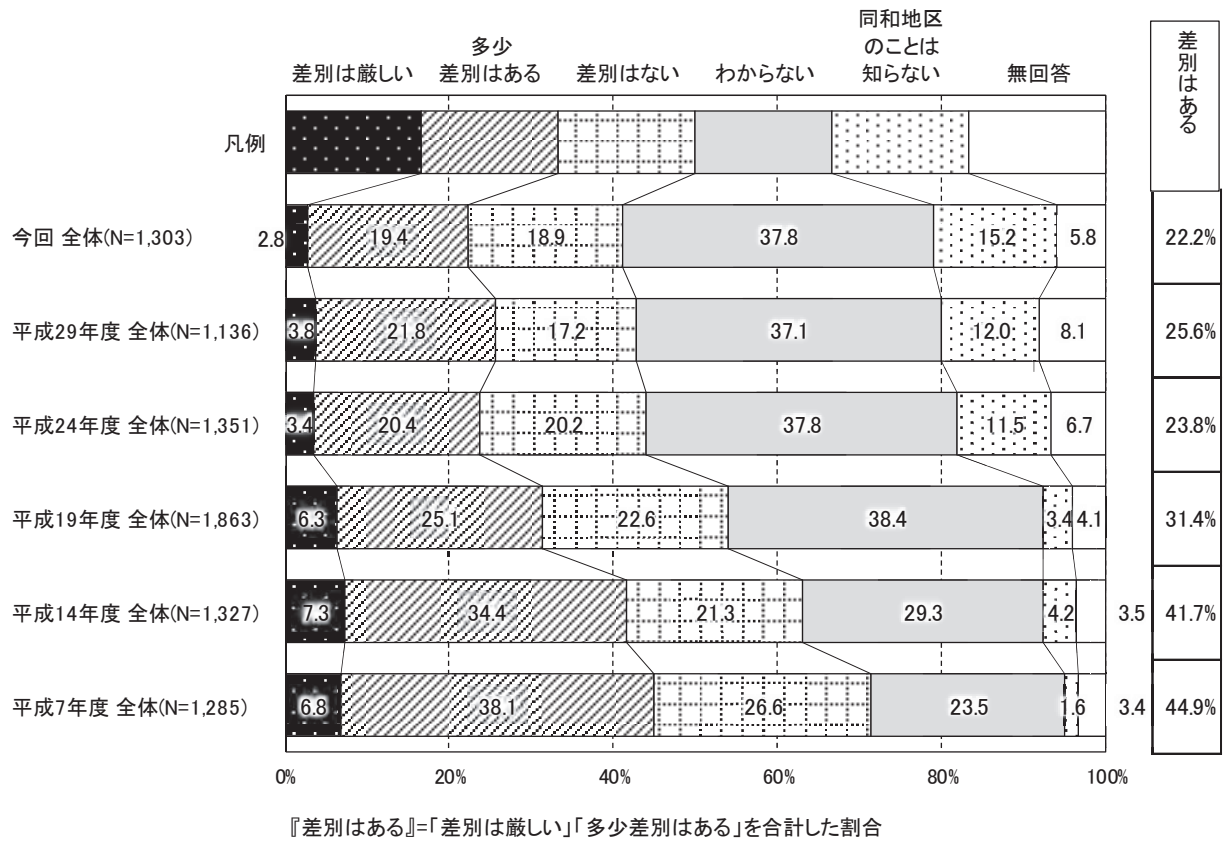
性別にみると、「差別はない」の割合は、男性が女性より 4.8 ポイント高い。

性・年代別にみると、女性では 40 代以下で『差別はある』の割合が 1 割を超え、50 代以上で 1 割未満と低くなっている。一方、男性では 30 代以下では 1 割未満で、40 代以上（70 代を除く）では 1 割を超えており、男女で対照的な結果となっている。

また、ア〜クの設定に共通するが、男性 18~29 歳は「同和地区のことは知らない」が他の性・年代と比べ非常に高い。

## イ 就職などの面

図表 13-4 いまなお差別があると思うかどうか（就職などの面）（全体／経年比較）

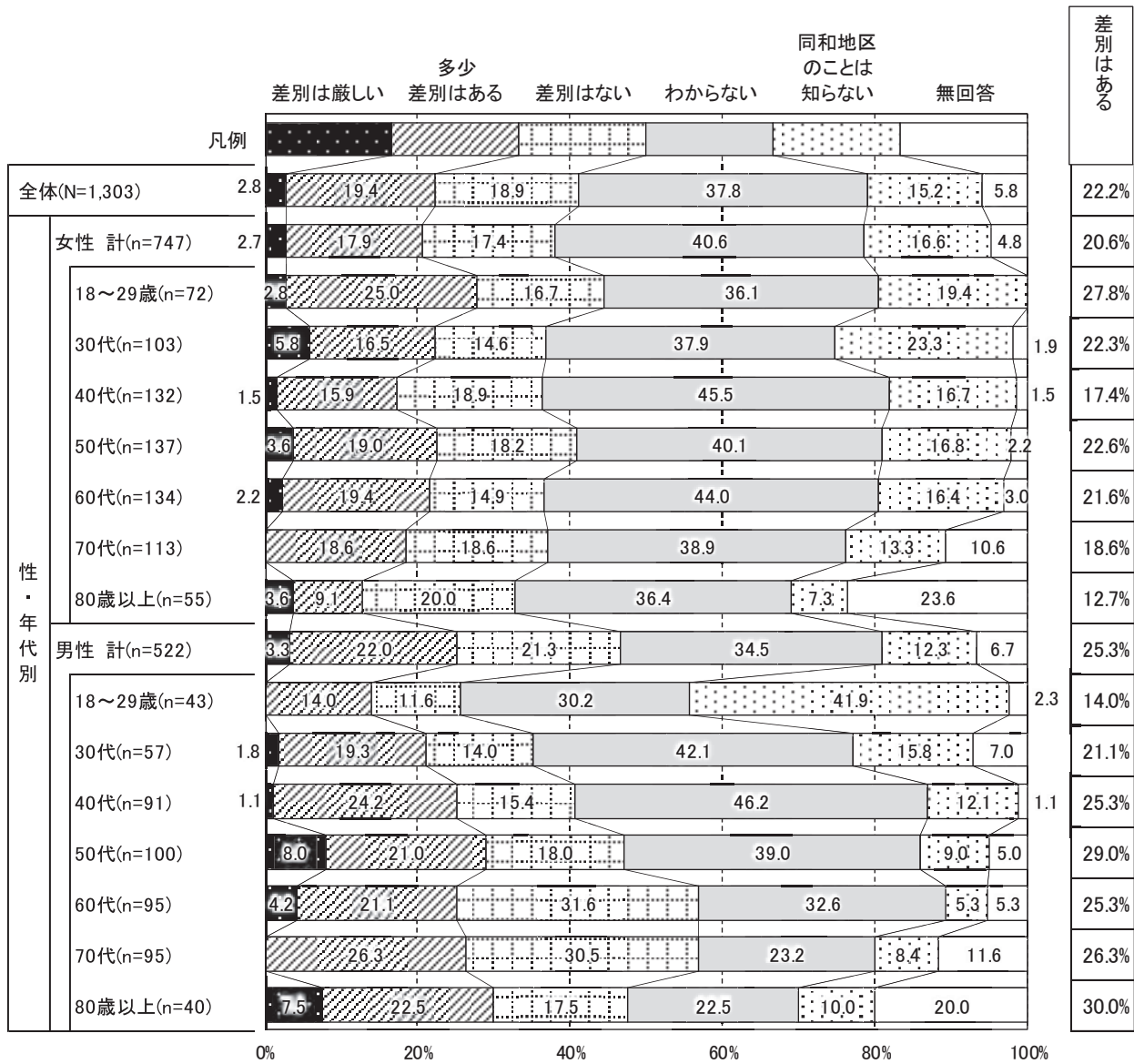


平成 29 年度と比較すると、「差別は厳しい」は 1.0 ポイント減少、「多少差別はある」は 2.4 ポイント減少、これらを合わせた『差別はある』は 3.4 ポイント減少している。一方、「差別はない」は 1.7 ポイント増加している。また、「わからない」は 0.7 ポイント増加、「同和地区のことは知らない」は 3.2 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、『差別はある』の割合は、最も高かった平成 7 年度の 44.9%と比べると、今回調査では 22.7 ポイント減の 22.2%となっている。

その一方で、「差別はない」の割合は、平成 7 年度の 26.6%から 7.7 ポイント減の 18.9%となり、「わからない」が 23.5%から 14.3 ポイント増の 37.8%、「同和地区のことは知らない」が 1.6%から 13.6 ポイント増の 15.2%となっている。

図表 13-5 いまなお差別があると思うかどうか（就職などの面）（性・年代別）



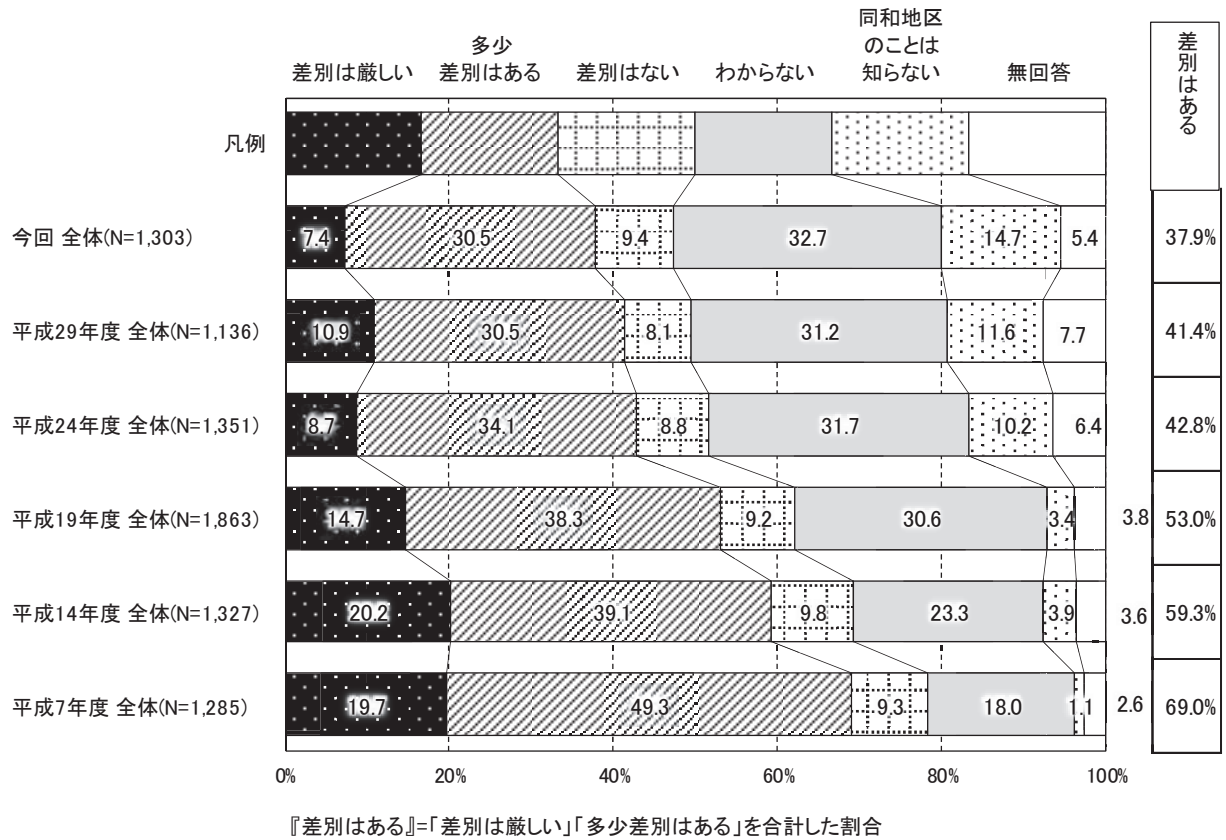
『差別はある』=「差別は厳しい」「多少差別はある」を合計した割合

性別にみると、『差別はある』は男性の方が女性より 4.7 ポイント高くなっている。また、「わからない」は女性（40.6%）の方が男性（34.5%）より 6.1 ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、女性 40代・70代・80歳以上、男性 18~29歳で『差別はある』の割合が 1 割台と、他の性・年代に比べて低くなっている。

## ウ 結婚の面

図表 13-6 いまなお差別があると思うかどうか（結婚の面）（全体／経年比較）

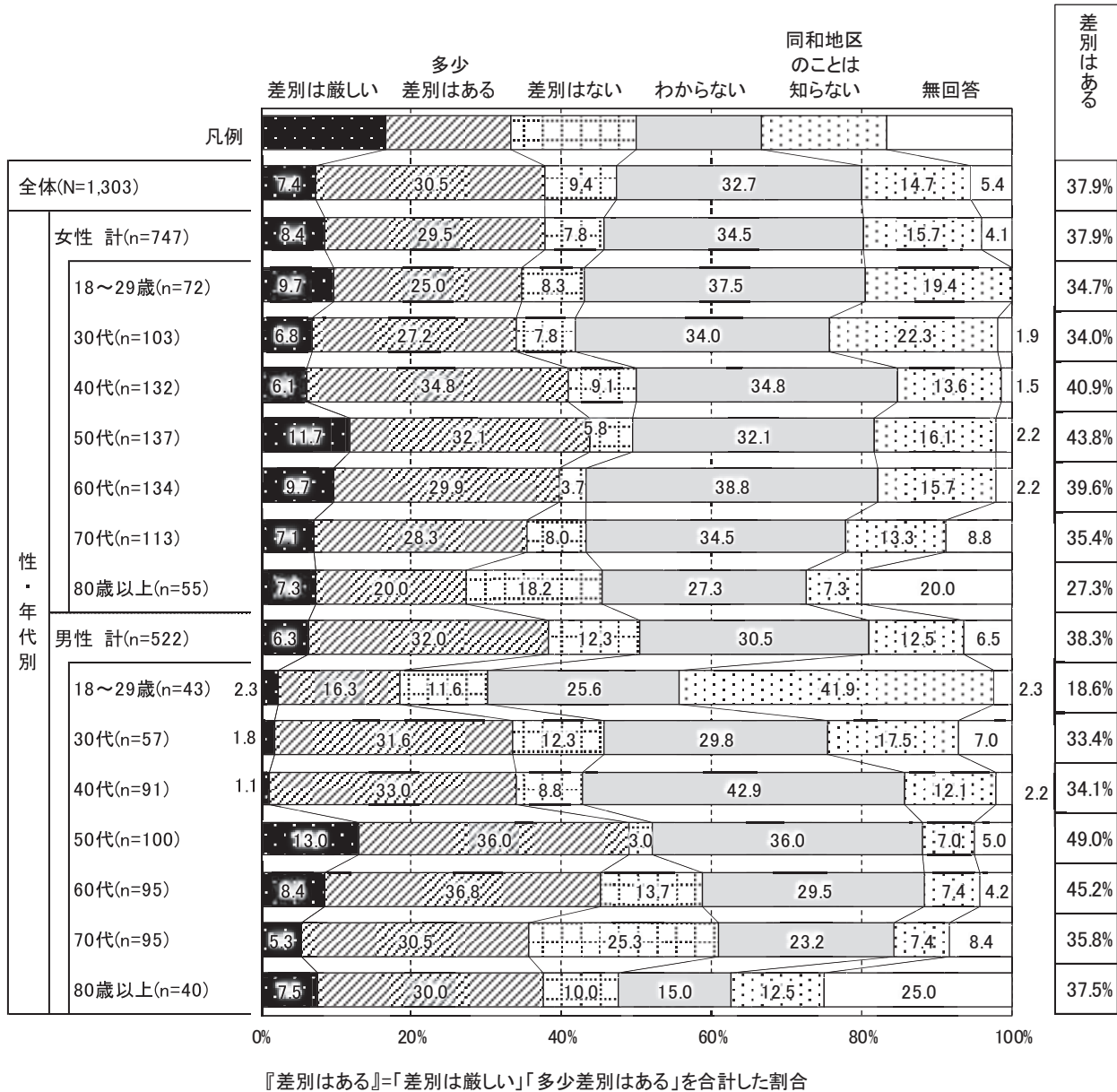


平成29年度と比較すると、「差別は厳しい」は3.5ポイント減少、「多少差別はある」は同率、これらを合わせた『差別はある』は3.5ポイント減少している。一方、「差別はない」は1.3ポイント増加している。また、「わからない」は1.5ポイント増加、「同和地区のことは知らない」は3.1ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、『差別はある』の割合は、調査ごとに減少しており、最も高かった平成7年度の69.0%と比べると、今回調査では31.1ポイント減の37.9%となっている。

その一方で、「わからない」の割合は、平成7年度の18.0%から14.7ポイント増の32.7%、「同和地区のことは知らない」が1.1%から13.6ポイント増の14.7%となっている。

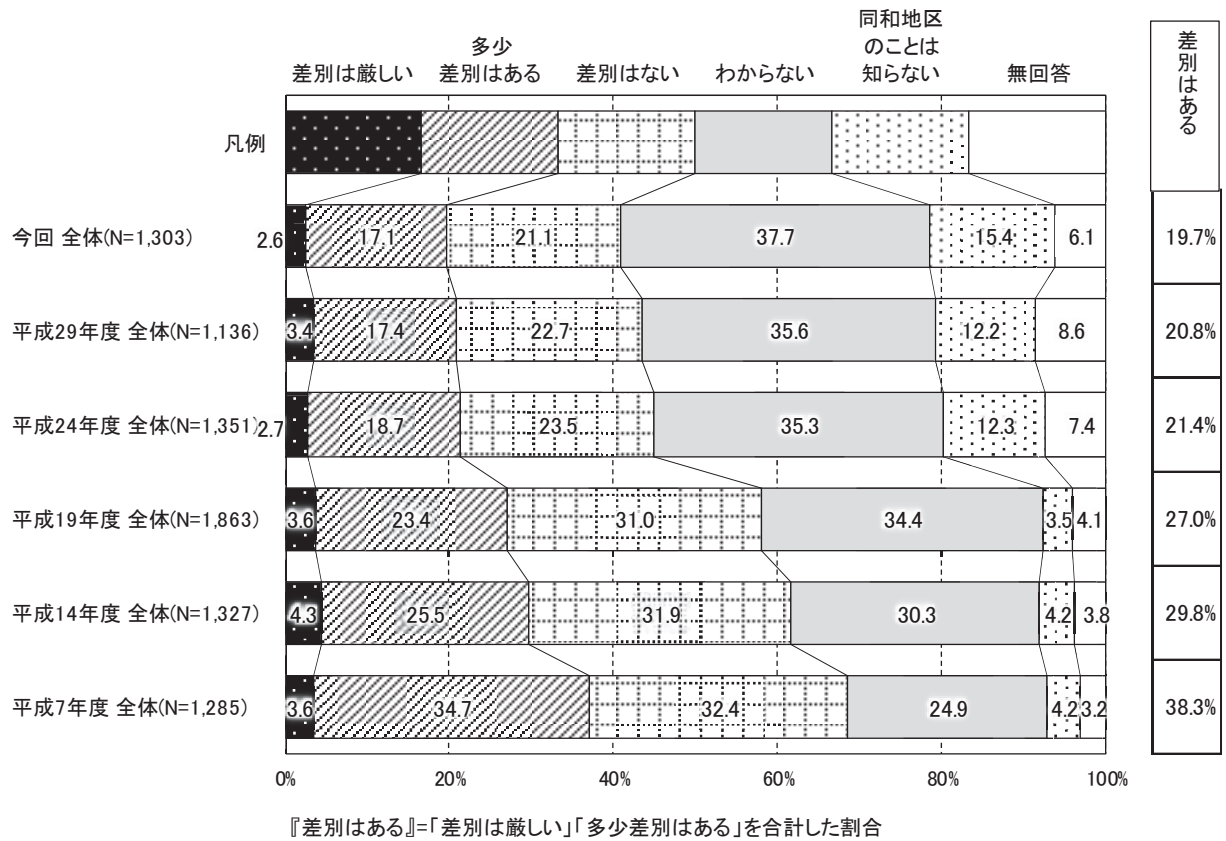
図表 13-7 いまなお差別があると思うかどうか（結婚の面）（性・年代別）



性別にみると、『差別はある』は女性（37.9%）と男性（38.3%）で大きな違いはみられない。  
 性・年代別にみると、女性40代・50代、男性50代・60代で『差別はある』の割合が4割台と高くなっている。

エ 生活環境面

図表 13-8 いまなお差別があると思うかどうか（生活環境面）（全体／経年比較）

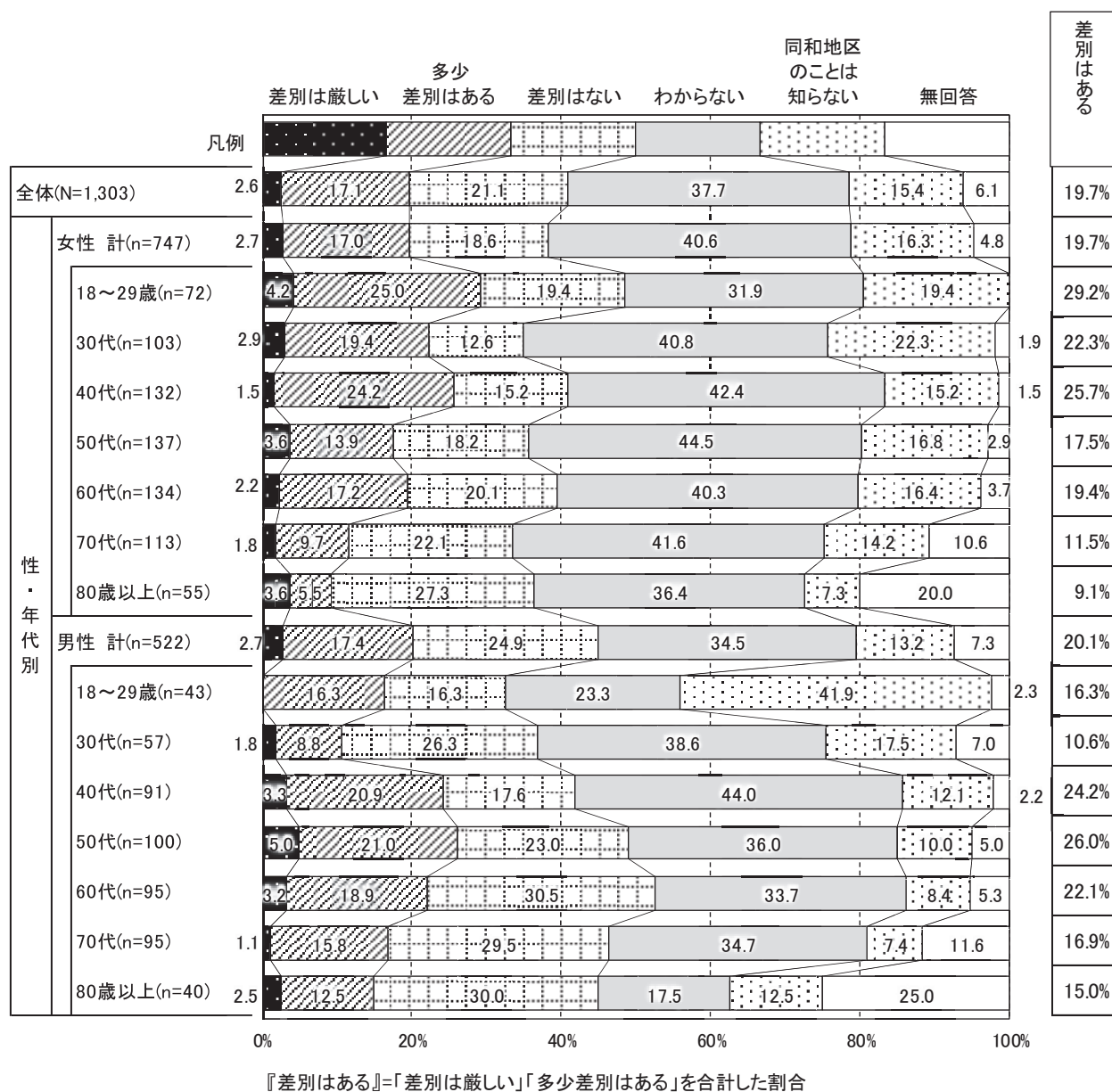


平成 29 年度と比較すると、「差別は厳しい」は 0.8 ポイント減少、「多少差別はある」は 0.3 ポイント減少、これらを合わせた『差別はある』は 1.1 ポイント減少している。一方、「差別はない」は 1.6 ポイント減少している。また、「わからない」は 2.1 ポイント増加、「同和地区のことは知らない」は 3.2 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、『差別はある』の割合は、調査ごとに減少しており、最も高かった平成 7 年度の 38.3%と比べると、今回調査では 18.6 ポイント減の 19.7%となっている。

その一方で、「差別はない」の割合は、平成 7 年度の 32.4%から 11.3 ポイント減の 21.1%となり、「わからない」が 24.9%から 12.8 ポイント増の 37.7%、「同和地区のことは知らない」が 4.2%から 11.2 ポイント増の 15.4%となっている。

図表 13-9 いまなお差別があると思うかどうか（生活環境面）（性・年代別）

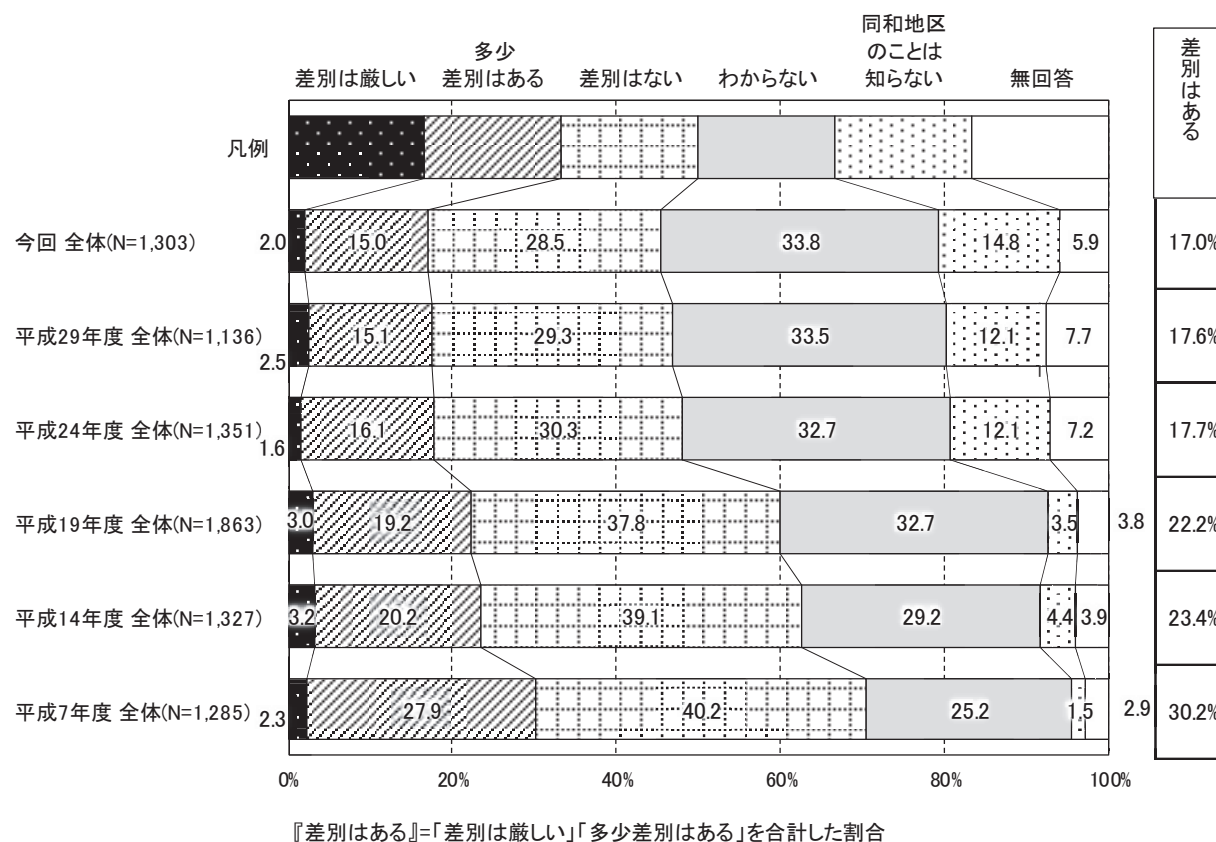


性別にみると、「差別はない」は男性（24.9%）の方が女性（18.6%）よりも 6.3 ポイント高く、「わからない」は女性（40.6%）の方が男性（34.5%）よりも 6.1 ポイント高くなっている。また、『差別はある』は女性（19.7%）と男性（20.1%）で大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、女性 40 代以下、男性 40~60 代で『差別はある』の割合が 2 割台と高くなっている。

## オ 日常のつきあいの面

図表 13-10 いまなお差別があると思うかどうか（日常のつきあいの面）（全体／経年比較）



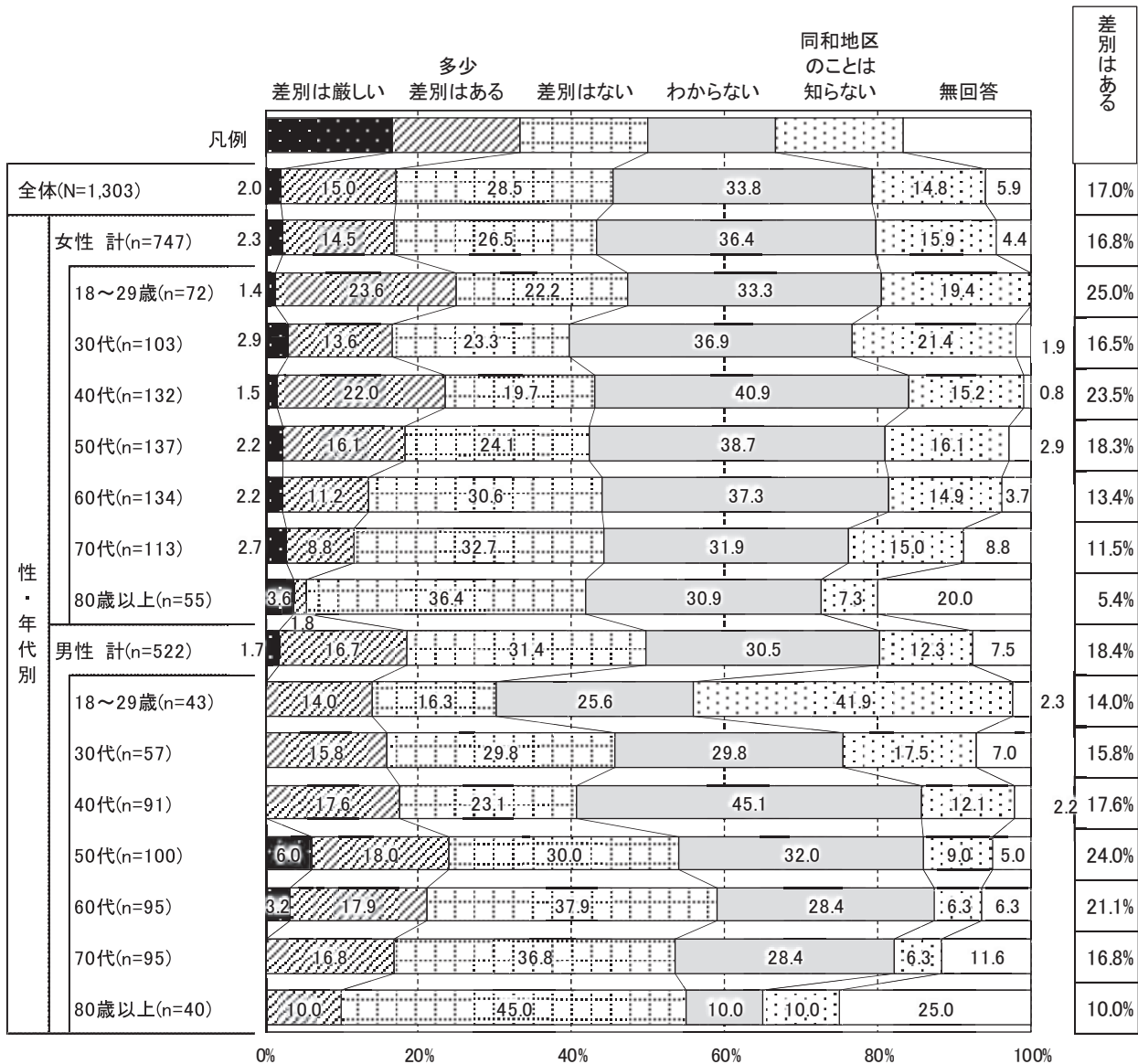
平成 29 年度と比較すると、「差別は厳しい」は 0.5 ポイント減少、「多少差別はある」は 0.1 ポイント減少、これらを合わせた『差別はある』は 0.6 ポイントの減少となっている。一方、「差別はない」は 0.8 ポイント減少している。また、「わからない」は 0.3 ポイント増加、「同和地区のことは知らない」は 2.7 ポイント増加している。

過去の調査結果と比較すると、『差別はある』の割合は、調査ごとに減少しており、最も高かった平成 7 年度の 30.2%と比べると、今回調査では 13.2 ポイント減の 17.0%となっている。

その一方で、「差別はない」の割合は、平成 7 年度の 40.2%から 11.7 ポイント減の 28.5%となり、「わからない」が 25.2%から 8.6 ポイント増の 33.8%、「同和地区のことは知らない」が 1.5%から 13.3 ポイント増の 14.8%となっている。



図表 13-11 いまなお差別があると思うかどうか（日常のつきあいの面）（性・年代別）



『差別はある』=「差別は厳しい」「多少差別はある」を合計した割合

性別にみると、「差別はない」は男性（31.4%）の方が女性（26.5%）よりも 4.9 ポイント高く、「わからない」は女性（36.4%）の方が男性（30.5%）よりも 5.9 ポイント高くなっている。また、『差別はある』は女性（16.8%）と男性（18.4%）で大きな違いはみられない。

性・年代別にみると、女性 18~29 歳・40 代、男性 50 代・60 代で『差別はある』の割合が 2 割台と高くなっている。